審判部活動

審判部とは・・・

今回は関西学生サッカー連盟の審判部について紹介したいと思います。今までの記事にもあったように審判部は主にIリーグ・サテライト・選抜で審判活動をしています。

〇九年度、審判部は三十二人で活動しています。〇Bも含めるとかなりの大人数になり、一級へ昇級しているかたもいます。構成としては、部長・Iリーグ等の審判割り当てを決める割り当て担当・定期的に行われる講習会等を企画する企画・広報担当の三担当を中心に審判部は構成されています。

審判部の星☆

今日はそんな大人数の人が所属していた中の、藤本啓太さん(阪南大学出身)という方に焦点をあてます。

藤本さんは、去年まで審判部に所属しており〇八年度の部長も務めておられました。阪南大学に通いながら審判活動に明け暮れたおかげで、今では社会に出ながらも一級候補として日々精進されています。そんな彼も入部当初は四級でした。入学した当初から審判をするつもりがあったわけではなく、指導方面でサッカーに関わっていたそうです。そうした活動を続けていく中で審判の道へと進んでいかれたそうです。入部当初はルールもちゃんと把握しきれていなかったようですが、Iリーグなどのいろいろな試合を吹くたびに実力をつけていかれたと伺います。そんな藤本さんは去年の現役大学生(四回生)時に、一部リーグの主審を務めるまでになりました。彼自身の努力もあったと思いますが、審判部という環境が彼を今の状況まで成長させたのではないかと考えられます。

審判の真髄

このように、大学在学中に二級まで行くことは大いに可能です。

審判で二級にあがるとカテゴリー別になり、このカテゴリーがあがると関西一部リーグの主審を務めることも可能になります。同じく一級もカテゴリー別になっており、最初はJFLであがるとJ1の試合を吹くことも可能です。審判でJリーグを目指すのも立派な夢ではないでしょうか。

審判活動に少しでも興味のある方、今後もサッカーに携わっていきたい方はぜひ審判部に入り活動し、関西のサッカー、日本のサッカーを盛り上げていってほしいと思います。

(後期第9節@三木防災　大院大vs大体大の主審を務める藤本氏　写真　真ん中)

審判部担当の仕事

私、審判部担当の仕事内容を軽く紹介したいと思います。仕事戸いっても割り当て担当が主に仕事をしており、それの補助が仕事になります。Ｉリーグを例に挙げると、割り当て担当が出した割り当てを前日に確認したり、会場校に情報を伝えたりと連絡が主な仕事になります。インストラクターのかたが入っておられたら確認の電話をするのも仕事の一つです。さらに企画広報担当がインストラクターと決めてくださった講習会の集約をしたりと、補助的な仕事が多いです。といった裏方の仕事が多いですが、審判部で知り合いの方が一部の試合で審判を務めているのを見たら嬉しくなるものです。

決して表舞台に立って目立つ仕事ではないですが、審判としての結果を出してくれるのでとてもやりがいのある仕事です。少しでも部員の役に立って、将来一人でも多くの人がＪのピッチに立って脚光を浴びてほしいと思います。

Ｒｅｓｐｅｃｔ

最近の審判団を見ていて水色のワッペンを見たことがないでしょうか？(下図)これは今年から推進されているリスペクトワッペンというものです。試合を観ていても、審判の判定に対して異議を唱えるシーンを見たことがあるかと思います。確かに首を傾げたくなる判定もあるかもしれません。しかし、審判も人間です。一流の国際審判でも判定ミスをすることはあります。それに異議を唱えても何の解決にもなりません。このような抗議のシーンを幼い子供たちが見たらどう思うでしょうか？未来のホープに良い影響を与えることはありません。

そこで、ＦＩＦＡは今年からＲｅｓｐｅｃｔの考え方です。リスペクトとは『大切に思うこと』。好きなサッカーを毎日楽しむために大切なものがリスペクトです。

レフェリーがいないとちゃんと試合ができません。レフェリーは試合においてとても大切な人です。

相手チーム、審判団は同じ立場で並ぶ相手なので見下しおそれてはいけません。サッカーに敵はいません。対戦相手は敵ではありません。自分たちの力を試し、サッカーを楽しむための大切な仲間です。試合の始めに相手の目を見てしっかりと握手をする。リスペクトの証として。

ファウルがあった。でもチャンス。転ばずにたくましくプレーを続ける。最近シュミレーションをする選手が増えているが、こういう気持ちが大切だと考えられます。すぐ転ぶよりプレーを続けるプレーのほうが観ていても楽しんでもらえるはずです。やっていて気持ちの良いゲームは、見ていて気持ちの良いゲームでもあります。

大切なものに囲まれて、好きなサッカーを楽しむことができる。「大切に思う気持ち」も、サッカーからもらえる大切な宝物。これがリスペクトである。

上記がリスペクトプロジェクトに関する文に私の考えをふまえたものであります。

サッカーは相手チーム・審判・試合を提供してくれる人がいて初めて成り立ちます。この記事を少しでも読んでいただいたなら、サッカーだけでなくスポーツをする上で非難・中傷をなくし、フィールドに立つ人が気持ちよくプレーできる環境を作ってほしいと思います。関西からこの考え方を広めていって日本サッカーを良い方向にしていけたらなと思います。

審判は特別高い位置にいるのではなく、選手と同じ位置にいる一人の人間です

右図　リスペクトワッペン

(選手とコミュニケーションを諮る藤本氏)